

(公開学習Ⅱ)

第5学年2組 道徳学習指導案

授業者 木原 一彰
小学校 5年2組教室

- 1 主題名 学問の道を究める（主として 1－（2）不撓不屈）
- 2 資料名 人の読むものならば～福沢諭吉～（鳥取市立大正小学校 乾 道夫教諭作，一部改作）

3 授業構成

（1）教師と教材

本題材は，新学習指導要領の次の内容に位置づけられる。

第5学年及び6学年の内容

1 主として自分自身に関すること

（2）より高い目標を立て，希望と勇気をもってくじけないで努力する。

「指導計画の作成と内容の取り扱い」3

（3）先人の伝記，自然，伝統と文化，スポーツなどを題材とし，児童が感動を覚えるような魅力的な教材の開発や活用を通して，児童の発達の段階や特性等を考慮した創意工夫ある指導を行うこと。

道徳的価値は人間の生きることに関わるものである以上，単に高い価値としてあらわれているというだけでなく，そこに込められた人間としての在り方や生き方，リアリティーが感じられるものである必要がある。そういった意味で，道徳の時間における感動資料としてもっとも適切なもののひとつが伝記資料であると考ええる。

本資料は，福沢諭吉の生涯について，その生い立ちから適塾時代を中心に描かれた話である。下級武士の家に生まれ，様々な困難に直面しながらも，自由平等と独立自尊の精神をもつことの重要性を説き，生涯を通して真摯に実学に励む姿を描いた資料である。本時は，主として内容項目の1－（2）「不撓不屈」をねらいとしている。特にこの資料では，身を立てて実際に世に出るのに役に立つ学問である実学と真摯に向き合い，自らが学問を究め，さらに後進の指導にあたることで，社会の変革を促そうとする福沢諭吉の強い意志と実行力を子どもたちに感得させることが重要であると考ええる。福沢諭吉の生き方にふれ，感じ，考え，自らを振り返ったときに，自分もかくありたしと思えるような道徳的心情を育むことができるよう活動を深めていきたい。

本主題の主たる価値は，福沢諭吉の学問を究めようとする不撓不屈の精神であるが，本教材で重要なのは，その精神を支えたと考えられる諸価値を重層的にとらえるとともに，子どもたちが自分なりの視点をもって，「なぜくじけることなく学問を究め続けることができたのか」を問い，考えを深めることにある。一度立てた志を貫くようにと，家財を売り払ってまで支えてくれた母への感謝（家族愛）や，自らを苦しめ続けた門閥制度を学問によって排し，民主的な社会を実現しようとした姿（公正・公平）などにこだわりをもって考える子どももいると予想される。人の生き方を考えるときに，行為を支える価値観を多様な視点から見つめていくことが重要であると考ええる。たとえそれが資料の主人公の弱さや迷いに関する部分であったとしても，子どもたち一人一人が人間の生き方についてこだわりをもって考えていくことで，自分の生き方を主体的に見つめ直し，考えを深めさせることができる考える。

（2）子どもと教師

本学級の児童は，これまでの道徳の学習において，資料の登場人物に対する感動や疑問をもとに話し合うという視点をもって学習を進めることができるようになってきた。また，朝自習の時間や複数単元での授業構成など，事前に題材として取り上げる人物について紹介することで，それぞれの子どもなりの人物観をもちながら学習を進めることにも取り組んでいる。そして，友達の発言と重ねながら自分の思いをより深めていたり，友達の発言のよさに気づいて自分の考えを変えていたりするような話し合い活動へ高めていこうと取り組んでいる。しかし，自分の生活経験と重ねて考えるとところまではいかない児童もあり，切り返しやゆさぶりの発問によって，自分ならどのような心情になるかを考えながら発言できるよう支援している。

(3) 子どもと教材

福沢諭吉に関する話し合い活動の活性化を促すために、子どもたちに福沢諭吉という人物について知らせる必要がある。まず、福沢諭吉の生涯を年表として配布した。子どもたちが福沢諭吉の生涯をとらえやすくするとともに、資料のなかに描ききれなかった部分を補完することを意図している。また、道徳ファイルに、福沢諭吉の生涯や彼の残した言葉をワークシートにしたものを教師がまとめ、子どもたちが感想を書き込んだうえで綴ることにした。これらの事前学習によって、子どもたちが学習のなかで、それぞれの福沢諭吉に対する見方をもとにして話し合い活動を進めることができると考えたからである。また、教室内に常に福沢諭吉の伝記や関連する本を置き、いつでも読める状況をつくることで、自主的に学習が進められる環境をつくった。

本時では、福沢諭吉の生涯について初発の感想を出し合う活動を通して、真摯に学問に打ち込む姿をとらえさせたい。そのなかで、子どもたちは、「なぜ、くじけることなく学問に打ち込み続けることができたのか」という部分に話し合いの中心を置くと考えられる。この問いに対して、福沢諭吉の向学心を支えてたものは何かという視点を持たせながら考えさせていく。そうすることで、子どもたちは、今まで学んできた福沢諭吉の生き様を振り返りながら、「門閥制度は親の敵で御座る」という思いや、「男が一度立てた志をやりとげなさい」という母の言葉、「天は人の上に人をつくらず、人の下に人をつくらずといえり」という言葉にこめられた意味など、福沢諭吉の生き方に対する多様な視点から話し合いを進めることができると考える。そして、「諭吉は人を育てることや学問の役に立つことに力を尽くすことで日本をどんな国にしようと考えたのか」を考えることで、福沢諭吉の学問への真摯な態度は、封建思想を一掃し、西洋諸国の侵略を防ぎながら、独立自尊の国づくりをすすめるという志が根底にあることに気づかせていきたい。さらに、話し合い活動の後半では、福沢諭吉の生き方から学んだことを自らの生活に返して考えさせる。具体的に、「福沢諭吉の生き方のなかで、今の自分の生き方に生かせることは何か？」を問うことで、本時で学んだ福沢諭吉の生き方を、自分の生き方のモデルのひとつとすることができると考える。

4 本時の学習

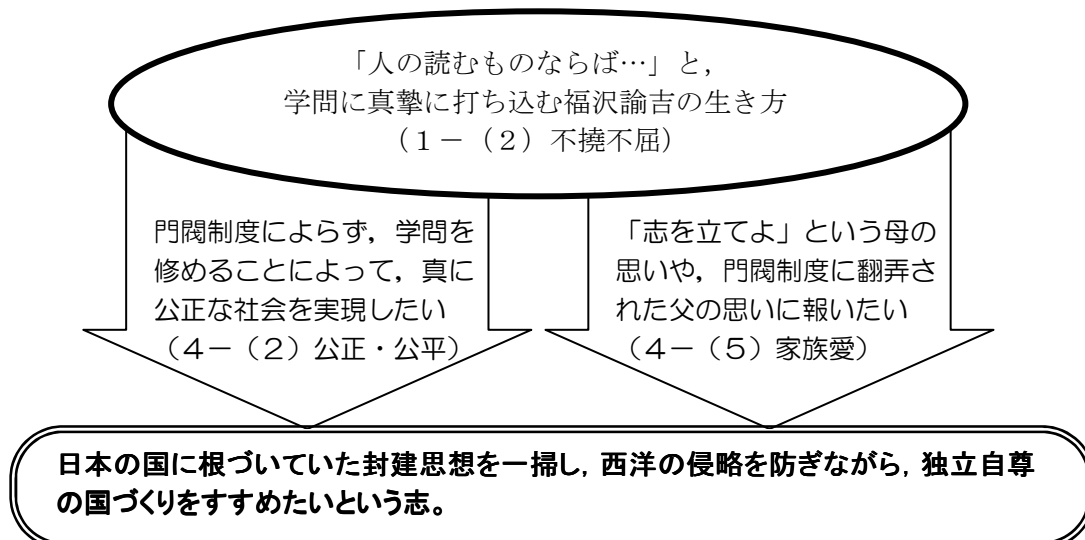
(1) 本時の目標

福沢諭吉の生き方に迫る話し合い活動を通して、真摯に学問に向き合う姿に共感するとともに、彼の学問に打ち込む姿を支えていた思いについて自らの視点をもって考えることができる。

(2) 期待される児童の様相

- ・ 福沢諭吉の生き方に対する思いや疑問から、本時の学習で追究したいことについて考える。
- ・ 福沢諭吉の生き方を支えた思いは何かについて、多様な視点から考え話し合う。
- ・ 福沢諭吉の生き方を支えていた思いについて、自らの視点を持ち自己の生き方を振り返る。

(3) 本時の学習における福沢諭吉の生き方に関する構造図



(4) 準備

資料「人の読むものならば ～福沢諭吉～」，提示用写真，ワークシート，道徳ファイル

(5) 本時の展開

学習過程	主な発問と児童の反応	教師の支援・意図
1. 感想の分析 2. 問題の焦点化・共有化	○資料「人の読むものならば～福沢諭吉～」を読んで各自が感想をもつ。 ○福沢諭吉の生き方に対して，どんな感想をもったか。 ・この上にしようがないほど学問に励むことがすごい。 ・人の読むものならば，必ず読んでみせるという気持ちがすごい。 ・なぜ，これほど学問にこだわるのか？	○資料の内容を正しく共感的に把握させる。 ○資料の主人公である福沢諭吉が著した書物や10000円札の肖像などを紹介する。 ○福沢諭吉の学問に真摯に向き合う姿に感想や問題意識をもつ児童が多いと考えられるので，本時追究する問題をその部分に焦点化させる。
福沢諭吉の生き方を支えた思いについて，話し合い活動を通して迫ろう		
3. 問題の明確化・追究	◎なぜ，福沢諭吉はくじけることなく学問に打ち込み続けることができたのだろう。「人の読むものならば…」という諭吉の姿を支えた思いに迫ろう。 ・諭吉は困難にぶつかるほど，それを乗り越えようと努力する人だから。 ・母の「一度立てた志を必ずやりとげなさい」という思いに応えたいと考えたから。 ・「ペンは剣よりも強し」と言ったように，日本の国のために学問をしているという強い思いがあったから。 (補助発問) ○諭吉は人を育てることや学問の役に立つことに力を尽くすことで日本をどんな国にしようと考えたのだろう。 ・「天は人の上に人をつくらず…」と書いたように，学問をすることで平等な社会をつくることができると考えた。 ・「門閥制度は親の敵で御座る」という言葉から，身分や家柄ではなく個人の力が評価される社会をつくらうと考えた。 ・「独立自尊」という言葉から，一人	○「人の読むものならば，必ず読んでみせる」という諭吉の思いを支えていたものについて，話し合いを通して迫らせたい。 ○資料文はもちろん，道徳ファイルで学習してきた諭吉像をもとに考えさせることで，諭吉を支えた思いについて，より多面的に考えを深めることができるようにする。 ○福沢諭吉の生き方や彼の残した言葉を手がかりにして，彼の学問に対する思いを自分なりの根拠をもって考え，話し合いを深めることができるよう支援する。 ○福沢諭吉の考えが多くの人々に伝わり，支持されていたことを共感的にとらえさせ，価値の主体化へとつなげていく。

4. 価値の主体化	ひとりが自分に自信をもって西洋に負けない国をつくることが大切だと考えた。 ○福沢諭吉の生き方のなかで、今の自分の生き方に生かせることは何かを考えてみよう。 福沢諭吉のどんな生き方 () 自分にどう生かすか () (例) ・ 福沢諭吉のあきらめない生き方を見習って、自分も剣道の練習にがんばりたい。 ・ 福沢諭吉が勉強に励んだように、自分も目標をもって勉強していきたい。	○福沢諭吉の生き方から学んだことについて自己の生き方に生かせることを考えさせる。 ◇ワークシートに記入し、それぞれの思いを語るなかで、さらに自己の生き方について考えを深める。 ◇子どもたちが、より多様な考え方を知り自分の価値観との違いを明らかにできるようにするために、挙手による指名だけでなく、意図的指名も取り入れる。
5. 本時で学んだことの確認	○福沢諭吉の「人生須く痕あるべし」という句を通して、彼の人生観を紹介する。	○教師の説話を聞き、学習のまとめとする。

(参考文献等)

- ・ 新訂 福翁自伝 福沢諭吉著 富田正文校訂 (岩波文庫)
- ・ 福沢諭吉名言集 富田正文著 (ポプラ社)
- ・ おもしろくて役に立つ子どもの伝記 15 福沢諭吉 浜野卓也著 (ポプラ社)
- ・ 明治維新の再発見 毛利敏彦著 (吉川弘文館)